

教育心理学カリキュラムの体系化に向けて(1)

—これまでの変遷と現状の課題—

川原 誠司

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第6号 別刷

2019年8月9日

教育心理学カリキュラムの体系化に向けて (1)[†]

—これまでの変遷と現状の課題—

川原 誠司*

宇都宮大学教育学部*

今回の一連の報告は、宇都宮大学教育学部での教育心理学カリキュラムについてこれまでのことを振り返り、今後の教育に活かすために、個々のカリキュラムを俯瞰して整理・統合するものである。本報告では、教育心理学の組織がこれまでの大学の流れでどのようにカリキュラムを作り、変えていったかを述べ、さらに今後に向けて現状でどのような課題を有しているかを述べる。

キーワード：教育心理学，カリキュラムの体系化，カリキュラムの変遷

1. 今回の一連の報告の目的

今回、教育心理学のカリキュラムに関して、教育心理領域に現在所属する全教員によって一連の報告を行うが、この理由として以下の4点を挙げる。

第1に、この20年ほどの流れを踏まえたものを記述することで、教員の入れ替わり等の流動性のある状況下でカリキュラムの変遷を明確に残す意図がある。それにより全体への周知につながり、今後、温故知新でのカリキュラム策定を考えることにもつながる。旧態に固執するだけでなく、これまでの所産を大事にして今後活かすことができる。

第2に、教育心理学の各専門領域に属する科目を担当教員が点検することで、当該教員だけでなく他の教員、ひいては組織全体の教育内容の理解につなげる意図がある。大学専門教育において教員個人の裁量のみで個々の科目が断片的に行われすぎると、特定の内容が見落とされたり、科目間の関連がとれない問題を孕んだりするからである。

第3に、教職専門科目と専門科目との有機的な繋がりを考える機会にするとする意図がある。教員養成に関してさらに重視されている状況において、学

部全体に何を教え、それを基に専門所属の学生にどのように発展させていくか、そのことを所属教員が共有し考える機会にするとということである。

第4に、専門科目について心理学の最新動向と一定の対応を取るように考える意図がある。本学部の教育心理学領域は心理学の専門職を養成するためのコースではない。しかし、学問の内容が異なるわけではない。他大学の心理学の専門学科に比して履修単位数の不利はあるにしても、教える内容について一定の包摂ができていることが、大学教育の質保証としても重要である。その確認の意味もある。

2. これまでの教育心理学領域での取り組み

教育心理学領域ではこれまでも、教育心理学に関する科目のあり方に関して検討を行ってきた。

代表的なものとしては、宇都宮大学が文部科学省による教員養成GP (Good Practice) に選定されたときに、教職科目についての学生の受講動機等について調査し (川原・澤田・山本・橘川・内野, 2006), また、専門科目との展開まで含めて様々な形式で企画・実施した上で、図1のような教育心理学の科目関連図のパンフレットを作成して、授業受講する学部学生やオープンキャンパス参加の高校生等に配付した (川原・澤田・山本・橘川・内野, 2007)。

教職科目については、「教育心理学」「生徒指導・進路指導」「教育相談」「幼児理解及び教育相談」といった、幼稚園免許の科目まで含めて現在とほぼ同

[†] Seishi KAWAHARA*: The systematization in teaching of educational psychology (1): The former change and the problem of the current state

Keywords: educational psychology, systematization of curriculum, former change of curriculum

* School of Education, Utsunomiya University (連絡先: kawahara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

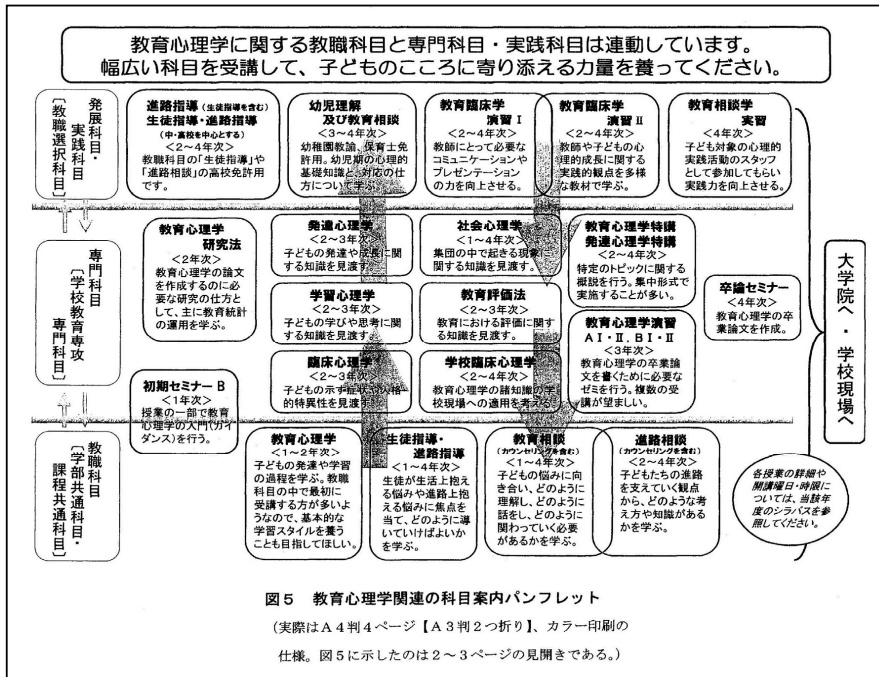


図1 2006年度に学部生や高校生に配付した教育心理関係の科目案内 (川原他, 2007のp.91)

じような設定であり、これらの科目が学部学生全体に開講されている状態の中で、専門の学生を中心に

学部学生に対して専門科目をどのように発展的に受講してもらうかを課題としていた。

表1 平成10年度の専門科目履修表

別表1-(2) 小学校教員養成課程 教育心理 専修履修表	授業科目	授業方法	1単位の時間数	開講年度	履修単位数	修得単位数	備考		
初期教育科目					0又は2				
教養教育科目					28又は30				
課程共通科目					5.6				
専修必修	発達心理学	講義	1.5	2	2	2-4	左記授業科目の履修によって、課程共通必修科目中の「自身の発達と学習の過程」「教育方法と技術」「特別活動」及び「生徒指導・教育相談」の計10単位を修得したものとす。		
	学習心理学	講義	1.5	2	2	2-4			
	教育評価法	講義	1.5	2	2	2-4			
	集団心理学	講義	1.5	2	2	2-4			
	臨床心理学	講義	1.5	2	2	2-4			
	教育心理学実験	実験	3.0	2	2	2-4			
	卒業論文				4	4		4	
	計					1.6			
	専修選択	生徒指導の研究(中学校)	講義	1.5	2			1-4	
		社会心理学	講義	1.5	2			2-4	
		行動計量学	講義	1.5	2			2-4	
		臨床心理学特講	講義	1.5	2			2-4	
		学習心理学特講	講義	1.5	2			2-4	
		発達心理学特講	講義	1.5	2			3-4	
		教育心理学特講(A)	講義	1.5	2			1-4	
		教育心理学特講(B)	講義	1.5	2			1-4	
教育心理学特講(C)		講義	1.5	2		1-4			
教育心理学特講(D)		講義	1.5	2		3			
社会心理学演習		演習	1.5	4		3-4			
臨床心理学演習		演習	1.5	4		3-4			
学習心理学演習	演習	1.5	4		3-4				
発達心理学演習	演習	1.5	4		3-4				
教育評価法演習	演習	1.5	4		3-4				
計					1.2				
専修専門科目合計					2.8				
学部選択科目					8				
自主選択科目					4				
卒業単位数					12.6				

表2 平成17年度の専門科目履修表

(1) 学校教育専攻 (教育学部履修規程別表1-(1))							
授業科目	授業方法	1単位の時間数	開講年度	履修単位数	修得単位数	履修年度	備考
教育哲学	講義	1.5	2			1-4	左記で選択した科目を除いて
国際化と教育	講義	1.5	2			2-4	
比較教育	講義	1.5	2			2-4	
日本教育思想史	講義	1.5	2			2-3	
外国教育史	講義	1.5	2			1-3	
教育方法学	講義	1.5	2			2-4	
授業の研究	講義	1.5	2			2-4	
学級経営	講義	1.5	2			1-3	
教育学特講	講義	1.5	2			2-4	
発達心理学	講義	1.5	2			2-3	
学習心理学	講義	1.5	2			2-3	
臨床心理学	講義	1.5	2			2-3	
社会心理学	講義	1.5	2			1-4	
教育評価法	講義	1.5	2			2-3	
学校臨床心理学	講義	1.5	2			2-3	
発達心理学特講	講義	1.5	2			2-4	
教育心理学特講	講義	1.5	2			3-4	
教育心理学研究法	演習	1.5	2			2-3	
教育学演習A I	演習	1.5	2			3	
教育学演習A II	演習	1.5	2			3	
教育学演習B I	演習	1.5	2			3	
教育学演習B II	演習	1.5	2			3	
教育心理学演習A I	演習	1.5	2			3	
教育心理学演習A II	演習	1.5	2			3	
教育心理学演習B I	演習	1.5	2			3	
教育心理学演習B II	演習	1.5	2			3	
卒業セミナー	演習	1.5	4	4	4	4	
卒業論文				2	2	4	
専攻専門科目合計					22		

3. 教育心理学の専門科目カリキュラムの変遷

その時々組織のあり方に影響されて、教育心理学領域では様々なカリキュラムの変遷があった。実際の履修表をもとに、背景となる事情やカリキュラムの考え方を説明する。

(1) 平成10年度まで（表1参照）

当時は小学校教員養成課程に属していたこともあり、専門科目の履修単位も比較的多く設定できた。学部選択科目や自主選択科目まで振り向けると40単位まで卒業単位として学ぶことが可能であった。

概論系の授業を教員が1つずつ担当し、実験とを合わせて必修とし、他の特講科目を選択としていた。また、演習はいずれか1つ（教員1名）のものを選択受講し、講読の授業を合わせて必修としていた。

(2) 平成11年度～平成22年度まで（表2参照）

平成11年度に組織改編があり、小学校と中学校の別がなく、両免許を取得する構造に変わった。当時の新課程発足にともなう教員養成課程の学生減により、それまでの教育専修と教育心理専修とが合併し学校教育専攻として組織された。

履修表については区分が大枠化され、教育学と教育心理学の科目間に区分線がある程度であった。取

得単位についても、最大18単位（卒業論文関係6単位を除くと実質12単位）と大幅に減じた。

演習については細分化されているように見えるが4単位のを2単位に分割しただけで、1名の教員を1年間取得する運営形式は変わらなかった。

「教育心理学研究法」（当時はこの科目で心理統計学の授業を行っていた）の受講推奨はあったが、カリキュラムの系統立ては不十分で、実際、3年次まで教育学の授業を選択していたが、4年生になって教育心理学で卒論を作成するという事例もあった。

(3) 平成23年度からの大幅改変（表3参照）

前記(2)の受講不具合等の問題に加え、平成21年度から新課程が総合人間形成課程として改組されたときに、その課程の人間発達領域に相当数存在した心理学を専門的に学びたい学生のカリキュラムにも資するように再編した。

教育心理学領域としてカリキュラムを独立させるとともに、開講科目を数種に種別化して、バランスよく受講するように構成し直した。

その際、表1から表2への精選の際に削除した「教育心理学実験」を復活させた。これは、知能検査等を全く扱わないまま卒業し、心理職に就いた後に苦労したというような卒業生の事例も生じたからであ

表3 平成23年度の専門科目履修表

(1) 学校教育専攻（教育学部履修規程別表1-(1)）						
学校教育専攻専門科目						
授業科目	授業方法	1単位の時間数	開講単位	履修単位数	要講年次	備考
教育哲学	講義	15	2	14	2~4	教育学領域または教育心理学領域を選択して18単位を履修する。
国際化と教育	講義	15	2		2~4	
比較教育	講義	15	2		2~4	
日本教育思想史	講義	15	2		2~4	
教育方法学	講義	15	2		2~4	
授業の研究	講義	15	2		2~4	
学級経営	講義	15	2		2~4	
カリキュラム論	講義	15	2		2~4	
教師教育論	講義	15	2		2~4	
教育評価論	講義	15	2		2~4	
教育統計学	講義	15	2		2~4	
教育学演習Ⅰ	演習	15	2		3	
教育学演習Ⅱ	演習	15	2		4	
発達心理学	講義	15	2		6	
学習心理学	講義	15	2	2		
臨床心理学	講義	15	2	2		
社会心理学	講義	15	2	2		
人格心理学	講義	15	2	2		
心理統計学	演習	15	2	2~3		
教育心理学実験	実験	30	2	4	2~3	
教育心理学特講A	講義	15	2		3~4	
教育心理学特講B	講義	15	2	4	3~4	
発達心理学特講	講義	15	2		3~4	
人間問題と心理学	講義	15	2	4	3~4	
感情心理学特講	講義	15	2		3~4	
教育心理学演習A	演習	15	2	4	3	
教育心理学演習B	演習	15	2		3	
教育心理学演習C	演習	15	2		3	
教育心理学演習D	演習	15	2		3	
共通領域	卒業論文		4	4	4	
専攻専門科目合計				22		
学部選択科目				2		

「学部選択科目」は教育学部において開講されている授業科目すべてを対象とする。

表4 平成28年度の専門科目履修表

(1) 学校教育分野（教育学部履修規程別表1-(1)）							
学校教育分野専門科目							
授業科目	授業方法	1単位の時間数	開講単位	履修単位数	要講年次	備考	
教育哲学	講義	15	2	14	2~4	教育学領域または教育心理学領域を選択して18単位を履修する。	
視覚教育	講義	15	2		2~4		
道徳授業論	講義	15	2		2~4		
比較教育	講義	15	2		2~4		
教育方法学	講義	15	2		2~4		
授業の研究	講義	15	2		2~4		
カリキュラム論	講義	15	2		2~4		
教育と情報	講義	15	2		2~4		
教育評価論	講義	15	2		2~4		
教育統計学	講義	15	2		2~4		
教育学演習Ⅰ	演習	15	2		4		3
教育学演習Ⅱ	演習	15	2				2
発達心理学	講義	15	2		6		2
学習心理学	講義	15	2				2
臨床心理学	講義	15	2	2			
社会心理学	講義	15	2	2			
人格心理学	講義	15	2	2			
メンタルヘルス実習	実習	30	2	2~3			
心理統計学	演習	15	2	4	2		
教育心理学実験	実験	30	2		3		
教育心理学特講	講義	15	2	4	3~4		
発達心理学特講	講義	15	2		3~4		
臨床心理学特講	講義	15	2	4	3~4		
感情心理学特講	講義	15	2		3~4		
カウンセリング実習	実習	30	2	4	4		
教育心理学演習A	演習	15	2		3		
教育心理学演習B	演習	15	2		3		
教育心理学演習C	演習	15	2		3		
教育心理学演習D	演習	15	2	3			
共通領域	卒業論文		4	4	4		
分野専門科目合計				22			
学部選択科目				2			

「学部選択科目」は教育学部において開講されている。「小学校アドバンスト科目群」及び「グローバル関連科目」を除く授業科目すべてを対象とする。

る。授業の内容に適合するように名称変更した「心理統計学」と合わせてこれら2つを必須研究スキルとして必修の明示化をし、卒業論文作成に円滑に繋がった。

また、演習の開講方式も変え、各教員は半期開講とし、学生は必ず2名の教員を受講する形とした。

これにより学生は卒業論文作成に向けての知識や研究スキルをバランスよく受講しておくこと、また、特定の教員のみとの関係に閉じこもることなく領域の全教員の授業を一層受講できることに配慮した。

(4) 平成28年度からの一部改変 (表4)

平成27年度をもって募集停止した総合人間形成課程の教育所産をカリキュラムの中に組み入れた。具体的には「メンタルヘルス実習」や「カウンセリング実習」のような実習系科目を盛り込んで、意欲的な学生が心理学的な実践に対して能動的に取り組めるように配慮した。

4. 最新カリキュラムと現状と今後への課題

(1) 現状を踏まえた平成31年度のカリキュラムの策定

表4に示した平成28年度のものの一部改変し、平成31年度から運用するものが表5である。

表5 平成31年度の専門科目履修表

(1) 学校教育分野 (教育学部履修規程別表1-1)							
学校教育分野専門科目							
	授業科目	授業方法	1単位の時間数	開講単位数	履修単位数	備考	
教育心理学領域	教育哲学	講義	15	2	14	2~4	
	基礎教育	講義	15	2		2~4	
	道徳授業論	講義	15	2		2~4	
	比較教育	講義	15	2		2~4	
	教育方法学	講義	15	2		2~4	
	授業の研究	講義	15	2		2~4	
	カリキュラム論	講義	15	2		2~4	
	教育と情報	講義	15	2		2~4	
	教育評価論	講義	15	2		2~4	
	教育統計学	講義	15	2		2~4	
	幼児教育の方法・技術	講義	15	2		2~4	
	シニアメンタリティ教育論	講義	15	2		2~4	
	教育学演習I	演習	15	2		4	3
	教育学演習II	演習	15	2		4	3
教育心理学領域	発達心理学	講義	15	2	6	2	
	学習心理学	講義	15	2		2	
	臨床心理学	講義	15	2		2	
	人格心理学	講義	15	2		2	
	学級集団の心理学	講義	15	2		2	
	メンタルヘルス実習	実習	30	2		2	2~3
	教育心理学論文作成法	演習	15	1		4	2
	心理統計学	演習	15	2		4	2~3
	教育心理学研究法	実習	30	2		4	3
	教育心理学特講	講義	15	2		4	3~4
	発達心理学特講	講義	15	2			3~4
	臨床心理学特講	講義	15	2			3~4
	集団心理学特講	講義	15	2			3~4
	カウンセリング実習	実習	30	2		4	4
教育心理学演習A	演習	15	2	3			
教育心理学演習B	演習	15	2	3			
教育心理学演習C	演習	15	2	3			
教育心理学演習D	演習	15	2	3			
卒業論文				4	4		
分野専門科目合計					22		
学部選択科目					2		

学部選択科目は、教育学部にて開講されている科目すべて、及び専門導入科目(教育学部)を対象とする。
ただし、小学校アドバンスト科目群及びグローバル関連科目を除く。

必修化はしないものの「教育心理学論文作成法」を加え、論文の構成や表記、文献の収集や文献表記、引用の仕方やその問題、図表の表記など、論文作成に不可欠の学習を科目化した。

また、これまで「教育心理学実験」としていた授業を「教育心理学研究法」に名称修正した。「実験」の科目名称では実験法のみを想起されやすく、本授業は質問紙法や面接法、観察法等も含むので、一般的に使用される「研究法」の表記に修正した。

現行の総履修単位数と教員数、想定される受講学生数を考えると、この履修表は非常に教育的効果の高いカリキュラム体系になっていると感じる。各科目の内容の確認と科目間の包摂関係の確認を加えて本格的になるであろう。

(2) 群馬大学との共同教育学部構想に向けての諸課題

本稿の執筆時の2019年3月現在、群馬大学との共同教育学部構想が進行しており、教職科目のみならず専門科目のカリキュラムについても再編となることが見込まれている。

実質縮小を念頭に置いているこの改革において、そして組織的にもカリキュラム体系も異なる他所との統合において、平成31年度に改善したばかりのカリキュラムがどのように変化するのかは不確定であるが、学生にとって効果的な教育カリキュラムをできるだけ維持したいと考えている。

引用文献

川原 誠司・澤田 匡人・山本 誠一・橘川 真彦・内野 康人之 (2006). 教育心理学関連の教職専門科目履修の現状と課題 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 29, 61-72.

川原 誠司・澤田 匡人・山本 誠一・橘川 真彦・内野 康人之 (2007). 教育心理学関連の教職専門科目に対する意識涵養の取り組み 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 30, 85-92.

平成31年3月29日 受理

**The systematization in teaching of educational psychology (1)
: The former change and the problem of the current state**

Seishi KAWAHARA